

獣医保健看護学専攻修士課程履修モデル

獣医保健看護学専攻修士課程では、獣医学領域の高度化に対応するために必要な高度な動物看護師並びに動物保健看護学の専門教育職・研究職の養成を目的としている。そのために、学士課程の教育基盤を基に、さらに専門教育を行うため1) 検査技術教育の基盤となる基礎科学教育と演習を専門とする基礎獣医保健看護学分野ならび2) 臨床看護教育の基盤となる高度看護学教育と演習を専門とする臨床獣医保健看護学分野の2つの専門領域を設置したまた、相互の分野を履修できる科目を配置し、専門性の深い教育、研究を実施する。

卒業要件

指導教員の特論2単位、特別研究8単位、所属分野の特別演習4単位、及び特別講義4単位の計18単位、指導教員以外の特論及び所属分野以外の特別演習から12単位以上を履修し、これら合わせて合計30単位以上を修得単位数とする。

所属分野以外の特論および演習の履修は可能である。また、特別演習を受講した場合、単位の認定は、半期を2単位とし、半期毎に認定する。

研究指導の方法

研究指導においては、指導教員の他に指導教員が推薦した副指導教員を2から3名おき複数の視点で、研究課題設定、研究課題の進行状況確認、議論などを通し研究指導を実施して行く。修士課程入学後の研究課題設定から学位記授与までの主要な事項を時系列に示す。なお、特別演習および特別研究は各履修モデルに示す。

- (1) 1年次 4月 研究課題の選定
- 5月 研究計画の設定、実験手法の確定と技術修得
- 6月 実験の開始と結果の収集
- 12月 実験結果の取りまとめ

2年次 前年度の結果を参考に次のステップの実験を開始する。以降は1年次と同様の日程で進める。実験結果はとりまとめの上、補足・追加実験等を行い、学術誌に投稿すると共に、学位論文（修士論文）の作成を行う。

- 4月 実験結果の取りまとめ
- 5月 修士論文作成開始
- 11月 学位論文審査申請
- 12月 学位論文配布
- 1月 学位審査
- 2月 審査結果審議

獣医保健看護学専攻
獣医生命科学研究科

3月 修士学位授与

1) 基礎獣医保健看護学分野所属大学院学生の履修モデル

基礎獣医保健看護学分野の所属大学院生は、指導教員の特論（2単位）、基礎獣医保健看護学特別演習（4単位）、基礎獣医保健看護学特別研究（8単位）、特別講義（4単位）の合計18単位を必須単位とし、卒業要件単位数の30単位に必要な選択科目12単位を当該分野科目の動物感染症学特論、野生動物医学特論、動物看護生理学特論、分子遺伝学特論、公衆衛生学特論、動物微生物学特論、動物生態学特論の中から履修させる。ただし、視野の広い人材を育成するため臨床獣医保健看護学分野の実践動物看護学特論、動物看護病態学特論、動物看護代謝学特論、動物看護倫理・教育学特論、動物行動学特論、臨床検査学特論の中から最低2科目（4単位）の授業科目を履修するよう指導する（履修モデルでは2科目4単位）。

+獣医保健看護学専攻修士課程の
基礎獣医保健看護学分野所属大学院学生の履修モデル

基礎獣医保健 看護学	一年次		二年次		合計単位数
	前期	後期	前期	後期	
特論	動物感染症学 特論 2 単位 (必須) 動物看護生理学 特論 2 単位 (選択)	動物微生物学 特論 2 単位 (選択) 公衆衛生学 特論 2 単位 (選択)	分子遺伝学 特論 2 単位 (選択) 臨床検査学 特論 2 単位 (選択)	動物看護病態 学特論 2 単位 (選択)	必須 2 単位 選択 1 2 単位
特別講義	特別講義 4 単位 (必須) 2 単位 2 単位				必須 4 単位
特別演習	基礎獣医保健看護学特別演習 4 単位 (必須) 2 単位 2 単位				必須 4 単位
特別研究	基礎獣医保健看護学特別研究 8 単位 (必須) 2 単位 2 単位		2 単位	2 単位	必須 8 単位
論文作成			論文作成	論文作成	
合計	10 単位	10 単位	6 単位	4 単位	30 単位

履修モデルでは、特にイヌやネコの予防医学に関連の深い動物感染症や微生物学、生理学、公衆衛生、分子遺伝学、臨床検査、病態などに関する理論あるいは実験手技を修得させる。また、研究課題の実践方法とその成果の取りまとめ方、発表の方法、科学論文の作成方法などを教授しその総括として修士論文作成を指導する。

基礎獣医保健看護学分野を履修することにより、動物保健看護学の基礎系専門職として人獣共通感染症を理解し、動物衛生ならびに公衆衛生活動に貢献できる人材が育成される。さらに、分子レベルでの病態メカニズム解明の先端技術、解析方法等が修得されるため、医薬品業界、行政関連機関の研究者や技術者としての活躍が期待されるとともに、動物看護関連教育機関において将来の教育者としての活躍も期待される。また、獣医学、医学などへの大学院博士課程への進学も可能である。

2) 臨床獣医保健看護学分野所属大学院学生の履修モデル

臨床獣医保健看護学分野の所属大学院生は、指導教員の特論（2単位）、基礎獣医保健看護学特別演習（4単位）、基礎獣医保健看護学特別研究（8単位）、特別講義（4単位）の合計18単位を必須単位とし、卒業要件単位数の30単位に必要な選択科目12単位を臨床獣医保健看護学分野の実践動物看護学特論、動物看護病態学特論、動物看護代謝学特論、動物看護倫理・教育学特論、動物行動学特論、臨床検査学特論の中から履修させる。ただし、視野の広い人材を育成するため基礎獣医保健看護学分野の動物感染症学特論、野生動物医学特論、動物看護生理学特論、分子遺伝学特論、公衆衛生学特論、動物微生物学特論、動物生態学特論の中から最低2科目（4単位）の授業科目を履修するよう指導する（履修モデルでは2科目4単位）。

獣医保健看護学専攻修士課程の

臨床獣医保健看護学分野所属大学院学生の履修モデル

臨床獣医保健 看護学	一年次		二年次		合計単位数
	前期	後期	前期	後期	必須選択
	実践動物看護学 特論2単位 (必須)	動物看護代謝学 特論2単位 (選択)	動物行動学 特論2単位 (選択)	動物看護病態学 特論2単位 (選択)	必須2単位 選択12単位
	動物看護生理学 特論2単位 (選択)	動物看護倫理・ 教育学特論特 論2単位 (選択)	臨床検査学 特論2単位 (選択)		
特別講義	特別講義4単位(必須) 2単位 2単位				必須4単位
特別演習	臨床獣医保健看護学特別演習 4単位(必須) 2単位 2単位				必須4単位
特別研究	臨床獣医保健看護学特別研究8単位(必須) 2単位 2単位 2単位 2単位				必須8単位
論文作成			論文作成	論文作成	
合計	10単位	10単位	6単位	4単位	30単位

履修モデルでは、臨床看護においてしばしば遭遇する、代謝異常、腫瘍、あるいは異常行動、加えて看護倫理の教育に関する理論あるいは実験手技を修得させる。また、動物看護の症例に関する研究課題の実践方法とその成果の取りまとめ方、発表の方法、科学論文の作成方法などを教授しその総括として修士論文作成を指導する。

この分野を履修した人材は、臨床看護学の専門職として獣医師とともに高度獣医療を支援する高度な看護師としての活躍が期待される。さらに、動物看護関連教育機関において将来の教育者としての幅広い活躍が期待される。また、獣医学、医学などへの大学院博士課程への進学も可能である。